

～欣浄寺法語メール～2015年1月～

成人式にあわせ東洋大学が募集する「現代学生百人一首」に、「今までは 電話なんかで済ませるな 今では せめて電話で話せ」(高1 高橋誠哉)との一首。しばらくしてから、あーそうかメールのことと気がつきました。

そういえばこの法語もメール、残念ながら声でのお届けではありません。そこで、以前名古屋別院のテレフォン法話で吹き込んだ原稿がとってありましたので紹介します。少し長いですが、音読してくだされば幸いです。

チベット仏教に「弟子の準備が出来ると師が現れる」という言葉があります。師つまり人を導くお方はその人のすぐそばにおられるということでしょう。

昨年、お寺の仏教壮年会の方々が本山へお
かみそりを受けにお参りされ、ご一緒しまし
た。本堂でのお参りはお正信偈です。たまた
まとなりに座られた女性が、ハンカチを取り
出ししきりに顔をぬぐわれます。汗ばむ陽気
ではないのでおかしいなと思いちらっと横を
見やると流れ出る涙をハンカチで抑えていた
のでした。偶然隣り合わせたお方ですから、
何処のどなたか、過去のつらい体験がよみが
えってきたのか、ごく最近悲しいお別れをさ
れたのか知るよしはありませんが、その思い
がお堂に響くお正信偈とともに伝わってくる
ようでした。お勤めが終わり、お賽銭を納め
に立って行かれた少し寂しげなその女性の後
ろ姿を見ていました。とにころが、お賽銭を
納めこちらをふりかえった時のお顔がとても

穏やかなのです。つい先ほどまで涙しておられたとは思えないご様子なのです。

「悲しみのまっただ中で出会える人がいる、苦しみのまっただ中でこそ聞こえてくる言葉がある」という法語を思い出しました。彼女にこころの準備をさせたものは何だったのかは分かりませんが、その準備をするずっと前から南無阿弥陀仏とはたらいてくださっていた如来さまのお慈悲をともにいただくことが出来ました。